

# 透析患者用簡易式止血ベルト（誰でも止め太くん）の開発提案

吹田徳洲会病院 井上 忠幸

## 【背景】

日本透析医学会の統計報告では、国内の透析治療を受けている慢性透析患者数は、2011 年を境に 30 万人を超え、2016 年の報告では、329,609 名である。透析患者様は、透析治療を効率よく実施するために、内シャントという動脈と静脈を吻合させるシャント手術を受けている。透析治療は通常、週 3 回、4 から 5 時間の透析を受け一生涯、通院しなければならない。

## 【問題】

透析終了時に行う止血手技においては手技の未熟さや患者側の不注意により過度な出血や止血ベルトの締めすぎによるシャント不全などの医原性の合併症を引き起こしやすい。止血手技には熟練した医療スタッフの力量に依存しているのが現状である。

## 【課題解決】

今回我々は、透析治療終了後の留置針の抜去時の止血操作手技に着目し、患者自身や未熟な医療スタッフが簡単に使用でき、目視での止血部位確認が容易かつ安全性を考慮した止血ベルトを開発することを目指したいと考えている。

## 【製品化による市場効果と可能性】

シャント不全や過度な出血を軽減することで、医原性のシャントトラブルによる再入院率を下げる。結果的にはシャント寿命の延長、スタッフの業務軽減などを含めて安全性の向上に寄与できると考える。